

令和6年度 全国学力・学習状況調査 和泉市調査結果概要

調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から

①全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

②学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

③「①・②」の取組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

調査概要

調査実施日	令和6年4月18日(木)
調査対象	①小学校調査:小学校6年生、義務教育学校6年生 ②中学校調査:中学校3年生、義務教育学校9年生
調査内容	①小学校調査:教科調査【国語、算数】/質問調査(オンライン回答) ②中学校調査:教科調査【国語、数学】/質問調査(オンライン回答)
調査問題	*学習指導要領で育成をめざす、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等を問う問題。
今年度の調査の特徴	*児童生徒質問調査について、全面的にオンラインによる回答方式で実施。

教科に関する調査結果概要

和泉市の平均正答数・無解答率

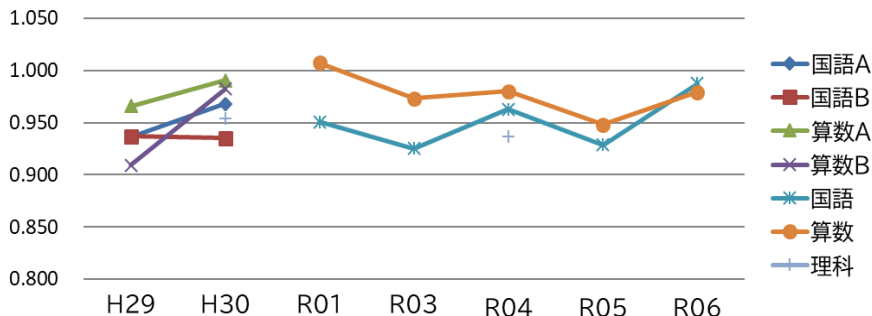
教科	小学校調査		中学校調査	
	国語	算数	国語	数学
平均正答数	9.4/14問	9.9/16問	8.2/15問	7.6/16問
無解答率	4.7%	3.8%	5.4%	15.3%



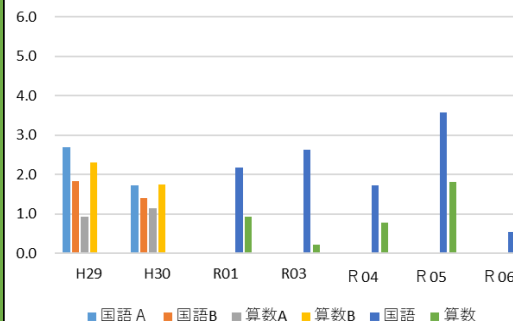
※本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面です。

【教科に関する調査結果】～和泉市調査結果(小学校)～

小学校 H29～R06 正答率(対全国比)



小学校 無解答率(対全国差)



※小学校には義務教育学校前期課程も含まれます。

* 正答率対全国比: 市平均正答率÷全国平均正答率

* 無解答率対全国差: 市無解答率-全国無解答率

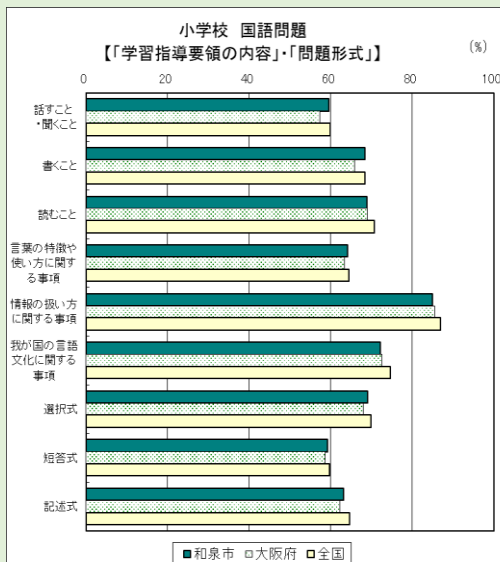
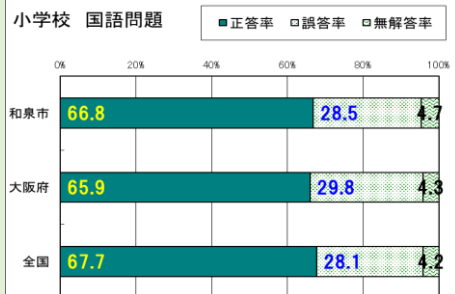
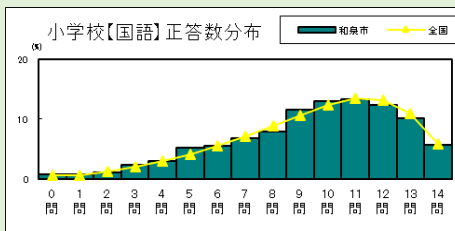
* 平成30年までは各教科A・Bの2区分あり。

* 令和2年度は全国学力・学習状況調査は新型コロナウイルス感染拡大の影響で実施されませんでした。

* 端数処理を四捨五入により行っていることから、平均正答率と対全国比及び無解答率と対全国差が一致しない場合があります。

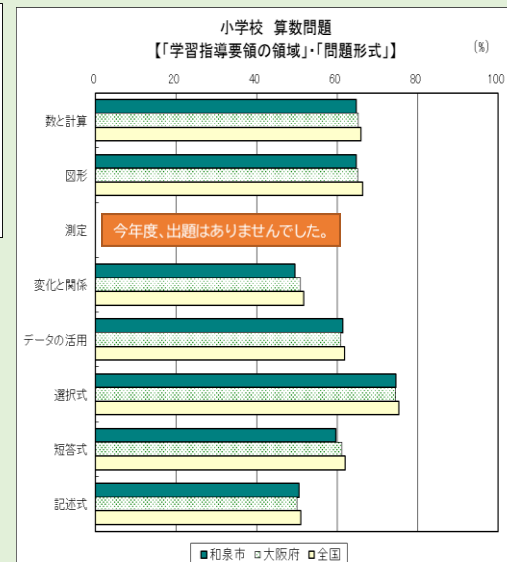
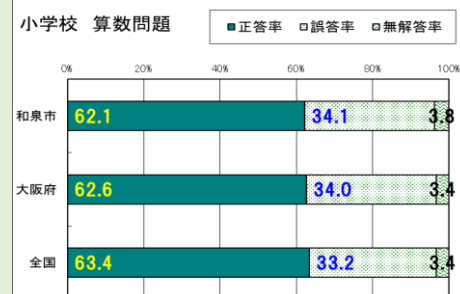
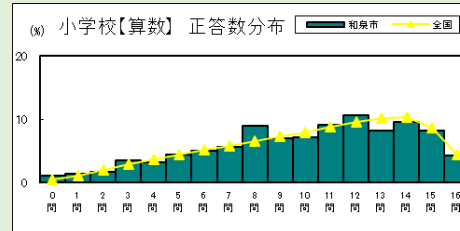
国語

- 平均正答率は、66.8%で全国を0.9ポイント下回り(対全国比0.988)、府を0.9ポイント上回った(対府比1.014)。
- 過去の調査と比較すると、無解答率が大きく改善している(前年度比-3.7ポイント)。
- 学習指導要領の内容「書くこと」については、全国の前年度をやや上回る結果となっており、他の内容についても府や全国と同水準となっている。
- 問題形式別の正答率は、すべて大阪府を上回り、長年課題としてきた「記述式」においても、全国と同水準に向上した。
- 正答数分布は、全国と同様に11問を頂点とする右寄りの山型になっている。



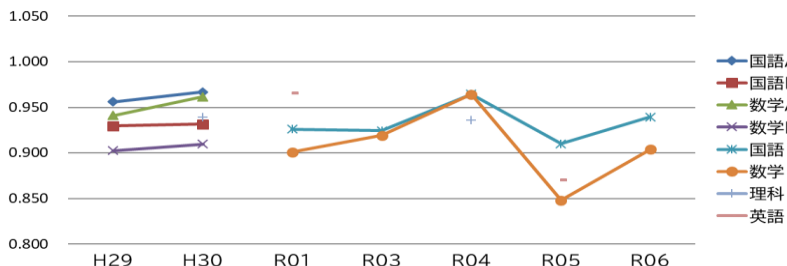
算数

- 平均正答率は、62.1%で全国を1.3ポイント下回り(対全国比0.979)、府を0.5ポイント下回った(対府比0.993)。
- 過去の調査と比較すると、無解答率が大きく改善している(前年度比-1.5ポイント)。
- 学習指導要領の領域では、ほぼ府や全国と同水準となっているものの、「変化と関係」の領域では、全国と比較するとやや課題がある。
- 問題形式別の正答率で見ると「短答式」において、大阪府を下回っているものの、長年課題としてきた「記述式」においては、全国と同水準となっている。
- 正答数分布は、8問・12問で2つの山があり、全国より左寄りの形となっている。

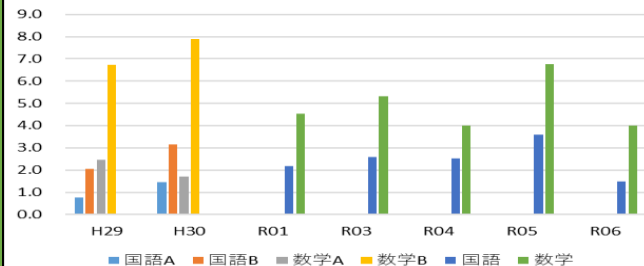


【教科に関する調査結果】～和泉市調査結果(中学校)～

中学校 H29～R06 正答率(対全国比)



中学校 無解答率(対全国差)



※中学校には義務教育学校後期課程も含みます。

* 正答率対全国比: 市平均正答率÷全国平均正答率

* 無解答率対全国差: 市無解答率-全国無解答率

* 平成30年までは各教科A・Bの2区分あり。

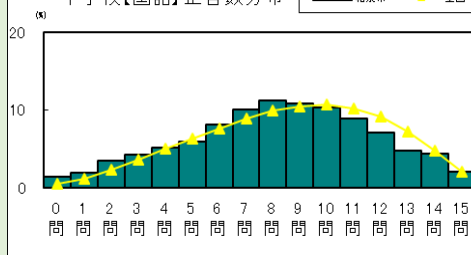
* 令和2年度は全国学力・学習状況調査は新型コロナウイルス感染拡大の影響で実施されませんでした。

* 端数処理を四捨五入により行っていることから、平均正答率と対全国比及び無解答率と対全国差が一致しない場合があります。

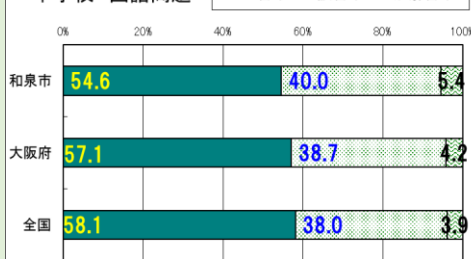
国語

- 平均正答率は、54.6%で全国を3.5ポイント下回り(対全国比0.939)、府を2.5ポイント下回った(対府比0.956)。
- 過去の調査と比較すると、無解答率が大きく改善している(前年度比-2.8ポイント)。
- 学習指導要領の内容「我が国の言語文化に関する事項」については、全国と同水準である一方、「書くこと」については引き続き課題である。
- 問題形式別の正答率では、いずれも府・全国を下回っているが、特に「記述式」問題が引き続き課題である。
- 正答数分布では、8問を頂点とした山型となっている。全国と比較するとやや左寄りとなっており、中間層の引き上げが課題である。

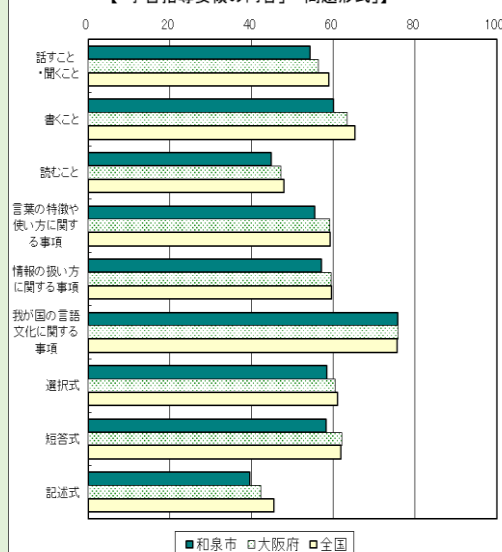
中学校【国語】正答数分布



中学校 国語問題



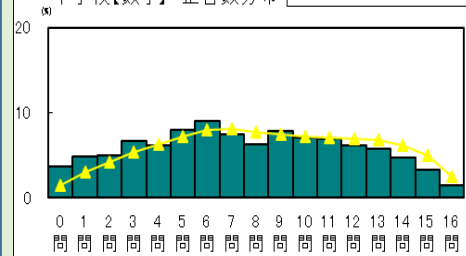
中学校 国語問題
【「学習指導要領の内容」・「問題形式」】



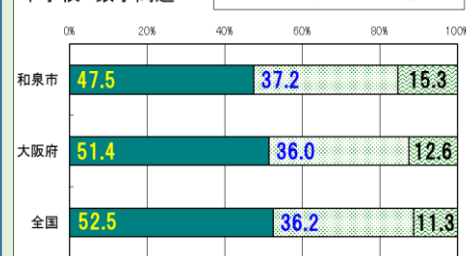
数学

- 平均正答率は、47.5%で全国を5.0ポイント下回り(対全国比0.904)、府を3.9ポイント下回った(対府比0.924)。
- 無解答率の全国差は改善傾向だが、依然として課題であり、特に「記述式」の問題形式で無解答率が上がる特徴がある。
- 学習指導要領の領域では、特に「図形」に課題がある。
- 問題形式別の正答率では、いずれも府・全国を下回っているが、特に「記述式」問題が引き続き課題である。
- 正答数分布では、6問の生徒が最も多くなっている。また、0～3問の生徒が全国平均よりも多く、12問以上の生徒が少なくなっていることから、低位層の引き上げとともに、上位層の引き上げが大きな課題である。

中学校【数学】正答数分布



中学校 数学問題



中学校 数学問題
【「学習指導要領の領域」・「問題形式」】

